

イー・ウーマン調査

「環境と意識と行動」に関する調査

株式会社 イー・ウーマン
<http://www.ewoman.co.jp/>

洞爺湖サミットの開催を控えた2008年6月、メディアでは地球環境、温暖化などに関する話題が多く見られる。環境に関する情報の量は多いが、地球環境を守っていくためには、情報を得た私たちが、どのように具体的に行動をするかが重要であると考える。今回、イー・ウーマンリーダーズ一人ひとりの、地球環境に対する意識と行動について調査し、585名から回答を得た。

■ 地球環境を意識 …… グラフ1 グラフ2

2007年6月に実施されたイー・ウーマン調査「環境保全」に関する調査から1年。環境に対する意識は変化しているのだろうか。日本における「地球環境」に対する意識は、世界的に高いほうだと思うを、前回同様に聞いたところ、「低い方だと思う」が34.7%（前回42.9%）で、「高い方だと思う」という15.9%（前回16.7%）を前回に引き続き上回った。「平均的だと思う」と回答したのは、41.2%と前回の29.9%よりも高く、全体的には、低い方だと思っていた人達が、「平均的である」にシフトしてきた格好である。次に、個人の意識について聞いた。「あなたは「地球環境」を意識していますか？」という問い合わせに対して、9割以上の92.6%が「意識している」と回答した。今、「地球」「環境」といったテーマに着目をしているだけでなく、多くのイー・ウーマンリーダーズが、地球環境を自分のこととして意識しているといえる。

■ 意識のきっかけ

意識していると回答した92.6%の人に対して、なぜ意識をするようになったのか、そのきっかけについて聞いたところ、「趣味」を通して環境を意識するようになったという回答が見られた。具体的に、登山やスキー、ダイビング、アロマなど。「ヨガをするようになってから、食生活が少しずつ変化し、そこから環境に対して興味が湧き始めた」といった回答がある。また、「子供の将来」を考えたときや、「メディアの報道」を通して意識が向いたとの回答も目立つ。そして、「仕事」をきっかけに、という回答も多い。直接環境に関する仕事、企業のCSRに関わる仕事、廃棄物やエネルギーといった分野の仕事に従事する中で、必然的に意識が向いている。開花のタイミングの遅れなど、「自然現象」がきっかけという回答もある。身近な出来事や、周囲の変化、日々体感することを通して、地球環境の変化を実感する機会が増えたようである。

■ 地球環境を意識した商品の取り入れ方 …… グラフ3

「地球環境を意識した商品を自分の意志で選んで使っているか」と聞いたところ、87.0%が選んで使っていると回答した。その具体的な内容として、「なるべく印刷しないようにするか、使用するのは再生紙」、「割高でも省エネ製品を選ぶ」「エコバッグ、風呂敷など再利用可能なサブバッグを持ち歩く」などについて、かなり多くの人たちが意志を持って行動していると思われる。また、「理念が良くない企業で生産されたものは買わない」という回答に見られるように、商品そのものだけでなく、それを提供する側の姿勢も問われていると思われる。

■ 実感できない、小さな取り組み …… グラフ4

地球環境を守るために具体的な努力をしているかを聞いたところ、61.2%が「努力している」と回答し、改めてイー・ウーマンリーダーズの意識の高さを感じる。「努力したいが、できていない」と回答した32.0%の人に、その理由を聞くと、「時間に余裕がなく、環境よりも利便性を優先してしまう」と回答と同様に、「日々、小さな行動を積み重ねているが、それが本当に環境を守ることにつながっているという確証を持てないため不十分」「情報過多で実際に何がどれだけインパクトがあるかわからなくなっている」といった、環境を守る行動の効果やその度合いが「実感」できないこと、定量的に判断できないことが、継続的なモチベーションを下げていると考えられる。

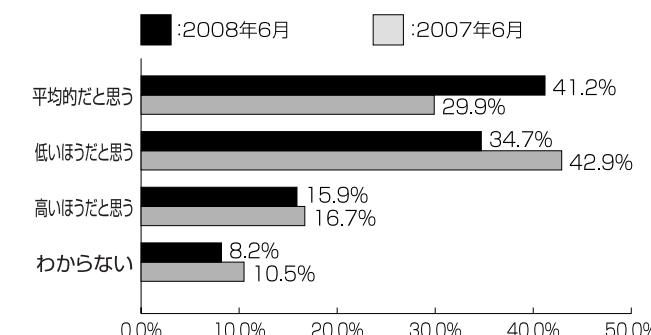
■ 楽しくつづける工夫 …… グラフ5 グラフ6 グラフ7

少し小さな観点に絞った質問も投げかけている。「エコバッグを持っていますか？」という問い合わせに対して、92.1%と大多数の人が持っていると回答した。通勤時もかばんに忍ばせていくことで、前述のように地球環境を意識して買い物をする場合にも、余分な袋や包装紙をもらう必要がなくなる。しかし、いつも持ち歩いているかを聞くと、携帯率は65.3%にとどまる。持っているが、使うことがあまりになるには、もう一工夫が必要なのかもしれない。エコバッグを選ぶ基準として、重視されているのは「使い勝手」（50.4%）と半数以上が回答した。現在は、かなりコンパクトにたためるものや、しっかりと強度のあるものなど、使い勝手が良い物が好まれている。現代のエコバッグは進化している。そして、持ち歩きたくなる工夫や、持ち歩きやすい工夫がある。気に入りのデザインを持ち歩きたくなるのもよし、驚くほどひっそりとバッグの中で潜んでいて、いざというときに活躍する頼もしさに感動するよし、長く、繰り返し楽しんで使えることが、継続の秘訣ではないだろうか。小さな取り組みの効果は、すぐには実感できないが、楽しんで続ける観点がとても大事なことと思う。

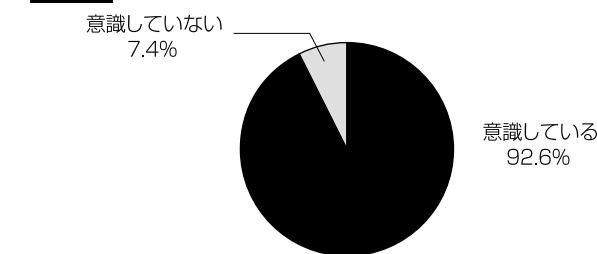
■ 地球をつくっていく

環境を守る上で、「減らす」「無駄をなくす」「消費しない」といった節約節減のアプローチがある。一人ひとりの取り組みとしてできることとして、それらを意識することは大切である。一方、企業としての取り組みも興味深い。「パッケージ」という、商品が売れた後はごみになってしまうものを主に取り扱っている。しかし製品を壊さずにお客様の手元まで届けるのもパッケージの使命ということで、環境に良い素材などを研究している」といった自由回答に見られるように、必要なものは、いかに持続的な素材へと移行できるかと考えられ、技術の開発が進められている。また、新しく環境に優しいエネルギーをつくりだす（ソーラーエネルギーなど）ことに象徴されるように、企業努力の結果生み出された技術を生かして、個人個人もエネルギーをつくれる時代になってきている。「無駄の排除」や「保持」だけでなく「つくる」という発想を持つことが、これから地球環境を持続性のあるものとして育っていくことに繋がるのではないかだろうか。

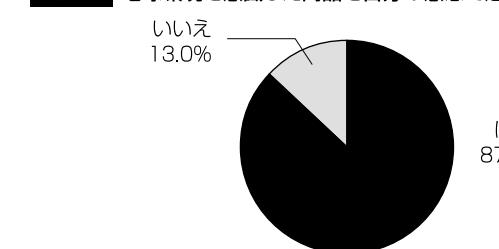
グラフ1 日本における「地球環境」に対する意識の比較



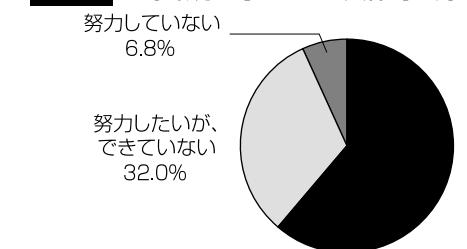
グラフ2 個人の地球環境に対する意識



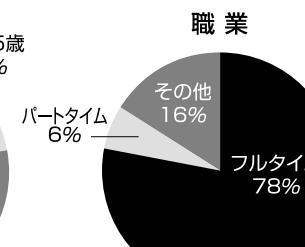
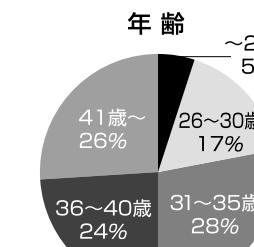
グラフ3 地球環境を意識した商品を自分の意志で選んで使っている?



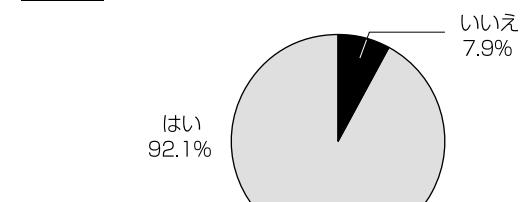
グラフ4 地球環境を守るために具体的な努力をしている?



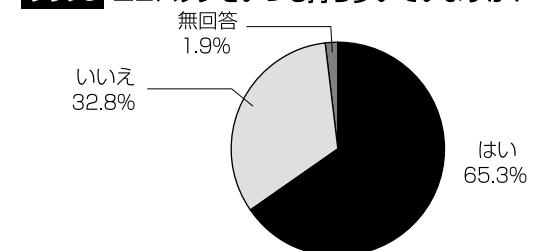
LEADERS DATA



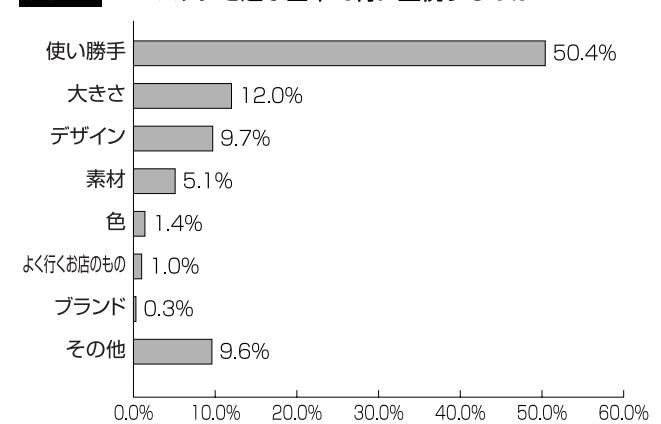
グラフ5 エコバッグを持っていますか?



グラフ6 エコバッグをいつも持ち歩いていますか? (N=539)



グラフ7 エコバッグを選ぶ基準で特に重視するのは?



<調査概要>

調査実施:2008年6月12日(木)～6月17日(火)
調査方法:インターネットによる自記入式アンケート
対象:イー・ウーマンリーダーズ
有効回答数:585名

